



吉良図書館歴史講座



江戸の本屋さん

～「べらぼう」の時代に読まれた本～



大河ドラマ『べらぼう』の時代の
実際の読書事情から出版まで
江戸の本の世界を紹介します。

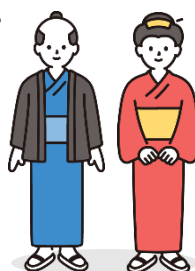


5月10日(土)から吉良図書館
カウンターにて受付開始。



翌11日(日)からは

電話での受付も行います!



6月22日(日) 14:00～15:30

対象：中学生以上

定員：20名(要申込・先着順)



講師

愛知淑徳大学 文学部非常勤講師
早川 由美 氏

文学博士。奈良女子大学大学院卒。
専門は江戸時代の文学・書物。
共著に『和食文芸入門』(臨川書店)
『<奇>と<妙>の江戸文学事典』
(文学通信) など。

詳しくはチラシをご覧ください



展示ピックアップ

「みどりを楽しむ」

5月1日～5月31日 一般壁面展示

新緑が気持ち良いこの季節。

園芸・樹木の本から、山登りやお散歩の本まで、
みどりを楽しめる本をお届けします。

その他の展示コーナー

「空のふしぎ」 (5月/正面展示)

「いろんな国いろんな時代いろんな日常」

(5月/歴史展示)

「どんな時代?江戸時代」

(6月/一般壁面展示)

「リアルティーンのおすすめ本」

(6月/正面展示)

「和菓子の歴史」

(6月/歴史展示)

NEWS

～要チェック!

子ども向けイベント～

西尾っ子 読書フェスティバル 2025

開催：4月23日～5月11日

10日(土)

- ・リサイクル楽器 ボロツケンを作ろう
- ・身近な材料で巻物を作ってみよう(要申込)

11日(日)

- ・布でブックカバーを作ろう!(要申込)
- ・おはなし会スペシャル えがおいっぱい!おはなし会

詳しくはチラシをご覧ください

おはなし会

『おはなしキラキラ』

第1・3・5水曜日

午前10時30分～

『おはなしくりん』

第3水曜日

午後4時～

『よみきかせ会』

第1日曜日

午前10時30分～

『土曜おはなし会』

第2土曜日

午前10時30分～



	月	火	水	木	金	土	日
5	4/23～5/11 西尾っ子 読書フェスティバル						1
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21 	22	23 読書の日	24	25 炭木のり子 講演会
	26	27	28	29	30	31	

	月	火	水	木	金	土	日	
6							1	★ おはなし キラキラ
	2	3	4	5	6	7	8	○ おはなし くるりん
	9	10	11	12	13	14	15	△ よみか かせ会
	16	17	18 	19	20	21	22 歴史講座	● 土曜 おはなし会
	23 30	24	25	26	27	28	29	

問題。以下の文章を読んで、 家族の幸せの形を答えなさい

早見和真／著

朝日新聞出版 (913.6/Ⅱ)

家族とうまういかず苛立つ毎日
を過ごす小学6年生の十和。現
状から逃げたい一心で、祖母が
暮らす大阪の私立中学に進む決
意を固めるが…。同著『店長が
バカすぎて』の世界ともリンク
する、家族の成長物語です。



お す す め の 新 刊

たったの1㎡で！ 野菜とハーブと花のミニ菜園

飯塚恵子／著

主婦の友社 (626/Ⅱ)

密植に耐える品種は？無駄
なくスペースを使うための
レイアウトやローテーショ
ンはどうするの？庭の一角
やコンテナなど、小さなス
ペースで多くの植物を育てる
コツが掲載されています。



1日5分で名画をめぐるごほうび美術の旅

らちまゆみ／監修・解説

JTBパブリッシング (720/ゴホ)

ゴッホの『星月夜』、フェル
メールの『真珠の耳飾りの少
女』、横山大観の『紅葉』な
ど、国内外の名画の舞台裏や
豆知識、画家にまつわるエピ
ソードを丁寧に紹介していま
す。「きれい！」を超える感
想が出ること請け合いです。



タイトル	著者名	
森永卓郎流「生き抜く技 術」31のラストメッセージ	森永卓郎／著	159/㊦
ビジュアル版 昭和100年激動の日本史	佐藤優／監修	210.7/ビジ
ニュートン先生の宇宙講義	吉田直紀／監修	440/㊦
かぎ針編みの春夏ニット や さしく編んで、上手に着こなす	成美堂出版 編集部／編	594.3/かぎ
文学館を旅する 全国の作 家・作品ゆかりの地をめぐる	今村信隆／監修	910.6/ブン
戦火のバタフライ	伊兼源太郎／著	913.6/㊦
ひとつ屋根の下の殺人	酒本歩／著	913.6/㊦

スタッフの推し本！

～図書館スタッフが交代でおすすめの本を紹介するリレー企画です～

今回のテーマ

支度

今回の推し人

ネコと本を
愛する旅好き
スタッフ



八月の六日間

北村薫／著

KADOKAWA (913.6/㊦)

椿ノ恋文

小川糸／著

幻冬舎 (913.6/㊦)

小説の「丁寧に支度をするシーン」が好きです。好みの「支度」に出合うと、本の魅力が3割ほどアップします。たとえば『八月の六日間』は、文芸誌副編集長のわたしが山歩きに出かける話で、人生色々あるけれど、山と向き合う度に心がほどけていく、という内容ですが、旅の装備や栄養補給のためのおやつを、ひとつずつ確認するシーンが何度も出てきます。まるで遠足前日の子どものようにワクワクします。『椿ノ恋文』は、鎌倉を舞台にした代書屋の物語で、『ツバキ文具店』シリーズの三作目です。便箋や封筒、筆記具の種類やインクの色、果ては香りづけまで、毎回その手紙にあった支度が丁寧に描かれていて癒されます。手紙以外の食事やお持たせの準備も楽しめて、日頃はガサツな私も丁寧な暮らしが味わえます。ニッチな推しポイントですが、おすすめです！